

令和五年度 三年 国語 定期テストⅡ

組 番 名 前

2023.11/0(金)

問1 漢字(漢字学習p38-p50)
問2 文学的文章
問3 説明的文章
問4 古典(古文)
問5 資料読解・作文
※文法問題(動詞・形容詞・形容動詞)
は、文章読解の中で出題します。

【注意事項】

- 1 開始の合図があるまでこの問題冊子を開いてはいけません。
- 2 問題は七まであり、2ページから15ページに印刷されています。
- 3 答えは、解答用紙の決められた欄に、楷書で丁寧に記入しなさい。
- 4 記述して解答する場合は、解答欄からはみ出さないように、はつきり書き入れなさい。
- 5 解答用紙にマス目がある場合は、句読点などもそれぞれ一字と数え、必ず一マスに一字ずつ書きなさい。なお、行の最後のマス目には、文字と句読点などを一緒におかず、句読点などは次の行の最初のマス目に書きなさい。
- 6 終了の合図があったら、すぐに解答をやめなさい。
- 7 次の授業にこの問題用紙を持つてくること。

一 次の「線部の漢字の読み方をひらがなで、ひらがなやかたかなを漢字で書きなさい。送り仮名がある場合は、送り仮名もひらがなで書きなさい。【1点×10】(知・技)

- | | | | |
|--------------|--------------|--------------|-------------|
| (ア) 墮落した生活。 | (イ) 割賦で支払う。 | (ウ) 少し痩せる。 | (エ) 逝去をいたむ。 |
| (オ) 交渉が決裂する。 | (カ) 三日のユウヨ。 | (キ) 相手をののしる。 | (ク) ショウを起す。 |
| (ケ) 信用のシツツイ。 | (コ) 相手をさげすむ。 | | |

二 次の①～⑤の各文中の「線をつけたひらがなやカタカナを漢字に表したとき、その漢字と同じ漢字をふくむものを、あとのア～エの中から一つずつ選び、その番号を答えなさい。【1点×4】(知・技)

(ア) 世をのろう。

- | | |
|-----------------------|---------------------|
| 1 書類を <u>シユリ</u> する。 | 2 枯れた <u>ジユモク</u> 。 |
| 3 <u>ジユキョウ</u> の思想。 | 4 <u>ジユモン</u> を唱える。 |
| (イ) 根気強く <u>さ</u> とす。 | 2 病気が <u>チユ</u> する。 |

- | | |
|---------------------|---------------------|
| 1 国語の <u>キョウゴ</u> 。 | 2 病気が <u>チユ</u> する。 |
| 3 <u>ヒユ</u> の表現技法。 | 4 <u>ユカイ</u> な人間。 |

(ウ) 大きなか。

- | | |
|--------------------|---------------------|
| 1 失敗に <u>こ</u> りる。 | 2 部屋に <u>こ</u> もる。 |
| 3 山を <u>こ</u> える。 | 4 丸々と <u>こ</u> えた犬。 |

(エ) つつしんで承る。

- | | |
|-------------------------|------------------------|
| 1 本番前で <u>キンチョウ</u> する。 | 2 <u>キンゴウ</u> を保つ。 |
| 3 自宅で <u>キンシン</u> する。 | 4 会社に <u>シュッキン</u> する。 |

三 次の俳句の解説として最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。【3点】(思・判・表)

春風や闘志いだきて丘に立つ

たかはまきよし
高浜虚子

1 包み込むような「春風」は、まっすぐに進もうとする作者の「闘志」を邪魔する、世俗的な雰囲気象徴している。

2 「春風」と若々しい力に満ちた「闘志」の取り合わせにより、作者の前向きな思いが表現されている。

3 明確な切れで間を置き、期待が高められたところに、歩んできた道を満足とともに振り返る作者の姿が立ち現れている。

4 新しい世界に踏み出す作者の不安な気持ちを、荒々しい勢いに満ちた「春風」が取り巻きながら、高めている。

【四 次の文章を読んで各問いに答えなさい。〔27点〕】

高校三年生でテニス部員の「私」(ひびのきりか)「日々乃希里夏」は、同級生で部長の宮越香凛(みやこしかりん)からいつも「エースとしてチームを引っ張ってほしい。」と言われていた。五月のある日、「私」は香凛に誘われ、テニス部の同級生で、プロ選手になるために海外に留学することを決めた川木裕吾(かわきゆうご)の試合を見に来た。

コートまで行くと、さすがに準々決勝、なかなかの人だかりだった。待ち合わせていた香凛はすでに来ていて、私を見つけると早く早くと手招きする。

「他の人たちは？」

「あの辺に㉖固まっているよ。山本がうるさいからすぐわかる。」

ちょうどそのとき、声援(せいえん)の中から一際(ひとときわ)大きながなり声がした。

「まず一本――！」

なるほど、一発でわかった。男子部と、ぼつぼつ女子部が混ざっているその集団からは距離(きょり)を取り、私たちはフェンスの空いている場所を見つけて防風ネットに顔を押し付けた。

スコアは2-0。勝っている。川木のサービスゲームだ。川木がトスを上げたところだった。相変わらず、トスが低い。打点も高い。体を弓のようにしならせて、矢のように弾き出すフラットサーブ。センターをレーザービームのように抜けていき、ノータッチエースとなる。

「ナイスサーブ！」

山本の声が響いた。①少し怒ったように聞こえるのはいつものことだが、山本は川木の海外行きに関して納得していないと聞いて㉗いる。㉘複雑な心境でこの試合を見ているのはきつと私だけじゃないだろう。香凛が以前言いかけたことを思い出す。全員に納得してもらって送り出してほしい……そう思っ(み)て観ると、川木のプレーは、なんとなく何かのメッセージを発しているようにも見えた。

川木は次々とファーストサーブを決めていった。相手だって東京ベスト16まで上がってきている選手だ、弱いはずがないのに、川木に臆(おく)する様子はない。そうそう何本もエースを獲(と)らせてはくれず、リターンもきっちり返してくる相手に、川木は鋭いフォアハンドでぐいぐいオープンスペースを作り、やわらかいタッチでボレーを決めている。川木のボールの方が深く、コースがいいので、ラリーで終始主導権を握(にぎ)って㉙いる。

川木はシングルスにムラがある、と山本が言っていたのを聞いたことがある。本人も言っていた。②どこが？と思ってしまう。今日が特別調子がいいのか、それともこれで普通なのか、一緒に練習したことはあるけれど試合を観るのが初めての私には判断がつかない。

あつという間に3-0になった。チェンジコートのように、川木と確かに目が合った。

川木は私を認めて、浅くうなずいた。そのままなんでもないようにベースラインに構えて、相手のセカンドサーブをリターンエースで仕留めた。

フェンスのこちら側がわつと盛り上がり、轟(とどろ)くような歓声がコートに響き渡る。川木が小さく拳を握って、私と香凛、それから山本たちが㉚いる応援団の方に向かって、ガッツポーズをして見せた。

普段は細く、頼りなく見えるその背中が、とても大きく見えた。③声援という声援が、吸い込まれていくようだった。

ああ。

違う。

全然違う。

私の試合とはまるで違う。

それは、応援したいと思わせる背中だった。

エースとして背負うべきものが、すべて乗って④いる背中だった。

私の背中にはきつと、あれが乗っていない。チームメイトからの信頼、期待、エースとしての責任……それらは、きつと重たいものだ。だけどあいつは、全部乗せてなお、前に突き進んでいく。

川木がエースなのは、川木がすごいからなんだと思っていた。
違う。

すぐければ、エースになれるわけじゃないのだ。

チームの柱だから、エースと呼ばれるのだ。

いつか香凛も言っていた。周りがそう認めたら、エースなんだって。

それなのに私は長いこと、“エース”の意味を、はき違えていたのかもしれない。

あんなにも力強く、コートに立っている川木を見て、今ようやくわかった。

そうか、香凛は私にも、ただそうあつてほしかったただけなんだ。

隣で彼女が川木の名を叫んでいる。

④何かが吹っ切れて、私も大きな声を出した。

「ナイスリターン、川木！」

「また朝練なの？」

朝、ウェア姿で家を⑤出ようとしたところで、母につかまった。

「うん。」

「もう大会終わったんでしよう？まだやるの？」

「最後の大会、残ってるから。」

テニスシューズの靴紐をぎゅつと締める。母の声は、少しずつトーンがあがっていく。

「最後の大会って、いつなの。」

「七月。」

「あんたねえ、七月ってもう夏休みじゃない。受験の(注)天王山は夏なのよ。そんな時期までなんの準備もせずテニスはつきりしてたら本当に、」

「お母さん。」

靴紐を結び終わった私は立ち上がり、振り向く。

⑥思えば、こうしてきちんと目を合わせるのは、ずいぶんと久しぶりかもしれない。

⑤目が合うとは思わなかったのか、母は身を竦めていた。その瞳は大きく揺らいでいる。親の気持ちがわかるほど、大人にはなれていない。だけど、口うるさいのは何かの裏返しなんだって、それくらいはわかるような気がする。

「あのね、これでも私チームで一番強いの。」

私が言うのと、母は何を言うのか、と目を白黒させた。どう思われてもかまわない。それでも、きちんとおきておきたいと思ったから。

「こんなんでも色々背負ってるし、期待してもらってる。だから、その分には応えたい。最後の大会まで、ちゃんと全力でやり切って終わりたいの。」

川木ももしかして、両親に対してこんなふうには、自分の海外行きを切りだしたのだろうか。私のこんなきさやかな独白と、あいつのばかどかい夢を並べて語るのは、ちょっと大げさかもしれないけれど。

「もちろん、受験のことはちゃんと考えてるよ。だから心配しないで。私、そんなに成績悪くないんだから。」

勝手に私に夢見るな、って思っていた。でも夢を見てもうえた、それだけの力があると信じてもらえた——それはきつと、「勝手」な思いからは生まれない。

大丈夫。私が思っているよりもずっと、自分の背中が大きくて、いろんなものが乗るのかもしれないと思うから。今は自分に期待してくれた人たちを信じてみようと思う。そこにはちゃんと、母も含まれている。

「あら、そう……」

⑥「じゃあ、いつてくるね。」

少し呆けたように「いつてらっしゃい。」と言う母を置いて、私は家を出た。すっきりとした夏空が、いつもより少し目に②まぶしい。

《天沢夏月「17歳のラリー」》

〔注〕天王山 ― 物事の重大な分かれ目。

ア ①②③の「いる」の中で、用法が異なるものが一つだけある。その記号を答えなさい。【1点】〔知・技〕

イ ④「固まっ」、⑤「複雑な」、⑥「出よ」、⑦「思え」、⑧「まぶしい」の活用形を次の中からそれぞれ一つずつ選び、その番号を答えなさい。ただし、同じ記号は二度使わない。【1点×5】〔知・技〕

1 未然形 2 連用形 3 終止形 4 連体形 5 仮定形 6 命令形

ウ ― ①「少し怒ったように聞こえる」とあるが、それはなぜか。次の空欄にあてはまる内容を本文中から十八字で抜き出し、はじめと終わりの三字を書きなさい。【6点】〔思・判・表〕

山本が

（十八字）

から。

(エ) ②「どこが?」と思ってしまう」とあるが、この表現から読み取れる「私」の様子として最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。【3点】(思・判・表)

- 1 試合を凝視したものの、以前話に聞いていた川木の弱点を確認することができず、途方に暮れている様子。
- 2 試合中の川木の姿が、話に聞いていたとおりだったので、山本と川木の客観的な分析に驚嘆している様子。

3 以前話に聞いていた川木の強さは分かったが、どこが優れているかが理解できず、困惑している様子。

4 優勢に試合を進める川木の姿を、以前聞いていた話と結びつけることができず、戸惑っている様子。

(オ) ③「声援という声援が、吸い込まれていくようだった」とあるが、この表現について述べたものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。【3点】(思・判・表)

1 大きな声が全く届かないほど集中して試合に臨んでいる川木の様子を、擬人法を用いて説明的に表現している。

2 大きな声援を受け止めながら堂々と試合をしている川木の様子を、たとえを用いて感覚的に表現している。

3 大きな声援に丁寧に応じて余裕の表情を浮かべる川木の様子を、擬人法を用いて写實的に表現している。

4 大きな声援を浴びながら全身で喜びを表している川木の様子を、たとえを用いて躍動的に表現している。

(カ) ④「何かが吹っ切れて、私も大きな声を出した」とあるが、この表現から読み取れる「私」の様子として最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。【3点】(思・判・表)

1 「エース」として自分に何が求められていたのかを理解したことで、これからどのような自分であればよいかははっきりした様子。

2 自分には「エース」になるために必要な実力がないことを実感したが、それでも努力を続けていこうと気持ちを切り替えた様子。

3 川木が「エース」であることに納得し、彼を超える「エース」になることにこだわり続けてきた自分自身から解放された様子。

4 自分が既に「エース」になっていたという事実に関付き、これまでの努力が報われて達成感と満足感でいっぱいになった様子。

(キ) ⑤「目が合うとは思わなかったのか、母は身を竦めていた」とあるが、母が「身を竦めていた」わけとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。【3点】(思・判・表)

1 振り返って真剣に話を聞くとしてくれている「私」の姿に感心し、「私」の成長をしみじみと実感したから。

2 まっすぐにこちらを見つめる「私」のふだんとは異なる様子に驚くとともに、「私」の意図が分からず動揺したから。

3 激しい口調で自分の考えを話し続ける「私」に圧倒されながらも、「私」の気持ちを落ち着かせようと慌てたから。

4 「こちらを見つめたまま黙っている」「私」を心配するとともに、厳しく言い過ぎてしまったことを反省したから。

(ク)―⑥「じゃあ、いってくるね。」とあるが、このときの「私」の気持ちとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。【3点】(思・判・表)

1 苦しい時に周囲の誰かが助けてくれたことに感謝し、自分も誰かを支えられる人になろうと意気込む気持ち。

2 自分の夢は自分だけの力でかなえるものだと思ひ、周囲の人から反対されても自分のやり方を貫く^{きと}とする気持ち。

3 自分には周囲の人の期待に応える力があると信じ、自信をもって自分の思うように進んでいこうとする気持ち。

4 期待に応えようと一人で空回りするのではなく、周囲の人を頼りながら成長していこうとする気持ち。

【五】 次の文章を読んで各問いに答えなさい。なお、一部省略したところがある。【32点】

私はいま、白い直方体の真新しい消しゴムを持っている。この消しゴムは、「白い」、「直方体である」、「新しい」といった特徴を持つている。これらの特徴のことを、哲学では専ら「性質」と呼ぶ。

この「性質」こそが「普遍者」とも呼ばれてきたものだ。例えば、「白い」という性質は普遍者である。これに対して、これらの性質を担っている消しゴムのようなものを「個物」と言ひ、「個別者」と言う。「白い」という性質が普遍者だと言われるのは、これが消しゴム以外の全ての白いものに、「普遍的に」当てはまるからである。砂糖も、塩も、（注）ホワイトハウスも、「白い」という性質を⑥共有している。「直方体である」についても同様だ。この本も、豆腐も、あなたが小学一年生のときに通った教室も、全て「直方体である」という性質を共有している。①これに対して、個別者は一つしかない。白いものはたくさんあるのに対し、いま私が持っている白い消しゴムは一つしかない。ホワイトハウスも一つしかない。直方体であるものはたくさんあるが、あなたが小学一年生のときに通った教室は一つしかない。このような意味で、「白い」のような性質は普遍者（あるいは単に「普遍」）、特定の消しゴムのようなものは個別者（あるいは「個物」と呼ばれる）。

右のような仕方で普遍者と個別者を⑦分けることは自然なことのように思える。A ⑧ここから、西洋哲学史上最大の問題の一つが生まれてくる。それは、普遍者は本当に存在すると言えるのか、また、もし存在するとしたらどのような仕方で存在するのか、という問題だ。

私が持つ白い消しゴムは、明らかに存在する。しかし、この消しゴムが持つ白さ、すなわち⑨「白い」という性質が存在すると言えるかどうかについては、判断することは難しいかもしれない。私たちは白い消しゴムや白い家を見たことがある。しかし、「白さ」そのものの、「白い」という性質そのものを見たことがある人など一人もいない。私たちが見ているのは白い消しゴムであって、白さそのものではないのだ。

また、「白さ」が存在するとしたとき、それがどの場所にあるかもわからない。例えば私の消しゴムは私の家にあり、ホワイトハウスはアメリカのワシントンDCにある。私の家と、ホワイトハウスの両方に、そしてその他の白いものがある全ての場所に、同じ「白さ」が存在するのだろうか。このように考えると、「白い」という性質、普遍者が存在すると考えるのは、かなり具合の悪いことだと感じられてくる。

しかし、「白さ」が存在しないと考えると都合が悪くなる場面もある。例えば、私の消しゴムとホワイトハウスはどちらも「白い」という性質を共有していると考えられる。だからこそどちらも白いと言われる。⑩ここで、「白い」という性質が存在しないとしたらどうなるだろうか。私の消しゴムとホワイトハウスが共通して⑪持つものなど何もない、ということになるだろう。それではなぜ、何も共通するところのない私の消しゴムとホワイトハウスがどちらも「白い」と呼ばれることになるのだろうか。「私の消しゴムも、ホワイトハウスも、同じ白という色を持っている」という、当たり前に思われた事実が、説明不可能になってしまわないだろうか。

⑬③この問題を回避するには、「白さ」そのものが存在すると考えた方が都合がよい。「白さ」そのもの、すなわち「白い」という性質がもし存在するなら、「私の消しゴムとホワイトハウスはどちらも（白い）という性質を共有している」という文を、文字通りの事実として認めることができるようになる。

（注）ヘーゲルも、「本当は何が存在するのか」や、「そもそも何かが存在するとはどういうことなのか」という存在論の問いを、哲学の最も重要な課題だと考えていた。ヘーゲルはこの問いに、「他のものと区別されているときである」という独特の答えを提示している。

ヘーゲルは「そこにある」ものを考えるにあたって、そこにあるものが輪郭を持っているということを重視する。再び消しゴムについて考えてみよう。机の上に載っている消しゴムには輪郭がある。輪郭によって、消しゴムは消しゴムでないものと区別される。消しゴムの輪郭は、消しゴムが載っている机と消しゴムを隔てる。また、消しゴムの周りの何も無い空間と消しゴムを隔てる。こうして輪郭によって周囲のものや空間と区別されることで、消しゴムというものの在り方が定まる。そしてこれによって、消しゴムは現に、そこに存在することができている。ここで重要なのは、何かが存在するときには必ず、そのものは他のものと区別されている、ということである。現に存在するものは、輪郭を持つ。輪郭を持つということは、周囲と隔てられているということである。周囲と隔てられているということはつまり、周囲のものや空間と区別されているということだ。④何かが存在するという事態を捉えるためには、そのもの以外のものに目を向ける必要がある。それ以外の、他のものと区別されることで、そのものは存在している。

何かの在り方を定め、それによってそのものを存在させるような区別は、空間的なものばかりではない。空間的でない区別も、ものを存在させている。

例えば、消しゴムは鉛筆ではない。机でもない。修正液でもない。輪郭でもない。また、白い消しゴムは、黒い消しゴムではない。直方体の消しゴムは、丸い消しゴムではない。このように、それが何であるのか、そしてどのような特徴を持つのかということに関しても、存在するものは、他のものと区別されている。この区別がなければ、「白い直方体の消しゴム」が存在するとは言えないだろう。

ここで「白い直方体の消しゴム」の存在を可能にしている区別は、輪郭による空間的な区別ではない。そうではなくて、「消しゴム」や「鉛筆」、「修正液」、あるいは「白」や「黒」といった性質に関わる、概念的な区別である。概念的に区別されることで、「白い直方体の消しゴム」は存在する。

重要なのは、何かが存在するということが、そのものが他のものから概念的に区別されているということが、切り離せないということだ。前に見た輪郭による空間的な区別だけでなく、概念的な区別もまた、何かが存在するということと成立させている。

空間的な区別は、輪郭で区切ることによって、個物を③存在させている。これに対して、概念的な区別は、輪郭を持たない普遍者をも存在させていると考えることができる。

例として、「白い」という性質を取り上げる。白という色は、黒や赤といった白以外の色から区別されている。このことによつて、「白」という性質は存在することが④できている。

色以外の性質についても考えよう。「直方体である」という性質は、「球である」「三角錐である」といった性質から区別されることによって存在している。

B、多くの個物や普遍者について、存在するということは、他と区別されているということと不可分である。

(注) ホワイトハウス — アメリカ合衆国の大統領官邸。白色の外観からこのように呼ばれる。

ヘーゲル — ドイツの哲学者。(一七七〇—一八三一)

- (ア) Ⅱ⑧「共有し」、Ⅱ⑥「分け」、Ⅱ⑩「持つ」、Ⅱ④「存在さ」、Ⅱ⑨「でき」の活用の種類を次の中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。同じ記号を二度使ってもよい。【1点×5】(知・技)

1 五段活用	2 上一段活用	3 下一段活用	4 力行変格活用	5 サ行変格活用
--------	---------	---------	----------	----------

- (イ) 本文中の

A	B
---	---

 に入れる語の組み合わせとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。【3点】(思・判・表)

1 A しかし B このように

2 A ところで B それでいて

3 A したがって B すなわち

4 A 例えば B あるいは

- (ウ) ①「これに対して、個別者は一つしかない」とあるが、その説明として最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。【3点】(思・判・表)

1 消しゴムが担っているさまざまな性質は、相互の組み合わせによって変化するため、完全に同じ性質は存在しないこと。

2 消しゴムが持つさまざまな特徴を、特定の性質として認識するのは個人であり、人によって認識には差があること。

3 ある特定の消しゴムのように、さまざまな性質を担っている個別的で具体的なものは、一つしか存在しないこと。

4 消しゴムなどの特定の個物が担うことのできる性質は一つしかないため、普遍的なものにはなることができないこと。

- (エ) ②『白』という性質が存在すると言えるかどうかについては、判断することは難しいかもしれない」とあるが、その理由として最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。【3点】(思・判・表)

1 私たちは白い消しゴムを見たことがあるが、そもそもその消しゴムが本当に存在すると言えるのかという問題について、明確な答えをもっていないから。

2 私たちは「白」という性質を持つ消しゴムを見たことがあるが、その消しゴムが本当に「白」かどうかを客観的に判断する手段をもっていないから。

3 私たちが見ている消しゴムが「白」という性質を持っていたとしても、同じ性質のものは世界中に存在するため、すべてを比較することができないから。

4 私たちは消しゴムのように「白」という性質を持つものを見たことがあっても、消しゴムの持つ「白」という性質自体を実際に見たことはないから。

(オ) ③「この問題」とあるが、この「問題」を説明した次の空欄にあてはまる内容を、存在、説明の二つの言葉を使って三十字以上、四十文字以内で考え一文で書きなさい。ただし、二つの言葉を使う順序は問わない。

【6点】(思・判・表)

「私の消しゴムも、ホワイトハウスも、同じ白という色を持っている」という、当たり前にも思われた事実が、

という問題。

(カ) ④「何かが存在するという事態を捉えるためには、そのもの以外のものに目を向ける必要がある」とあるが、

その理由として最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。【3点】(思・判・表)

1 そのものの在り方が定められることで、初めて輪郭を持つことが可能となるので、現に存在する同じ在り方をしている他のものを参考にして在り方を定める必要があるから。

2 そのものは単独では存在することができず、そのものの在り方が定まり存在できるようになるためには、そのものから隔てられ区別された他のものが必要不可欠であるから。

3 そのものの輪郭の持ち方が、そのものが単独で存在できないかを決めることになるので、他のものがあるどのような輪郭を持っているのか比較することが求められるから。

4 そのものは単独で存在することができるが、他のものとのような関係で空間に存在しているかを見ないと、そのものが存在する場所を正しく認識することができないから。

(キ) 本文で述べられた「ものの存在の仕方」について、次のようにまとめた。空欄にあてはまる内容を、それぞれ指定された字数で本文中から抜き出して書きなさい。【3点×3】(思・判・表)

個物は I(2字) により II(3字) に区別されることで存在するのに対し、

普遍者は他の性質と III(3字) に区別されることで存在する。

六 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。【12点】

兄の源頼朝から敵と見なされ追われる身となった「源義経」とその一行は、追っ手から逃げる途中、流れが速く、渡ることが難しそうな川に行き当たった。飛び越えられそうな場所を見つけて、皆が順番に川を越えていく中、最後に残った「武蔵坊弁慶」は、軽々と川を渡った、主人である「義経」を意識して、自分ほさらに難しい場所から飛び越えて見せようとわざと川上に移動した。

(間違ひなく飛び越えてお目にかけよう)

「そ、退きたまへ。この川相違なく跳ね越えて見参に入らん。」と申しければ、(注)判官これを聞きたまひて、

(この義経をねたんでいるぞ。あちらに目を向けるな)

(敵のひそ)

「義経を偏執するぞ。目なやりそ。」と仰せられて、貫の緒の解けたるを結はんとて、①兜を傾けておはしける

とき、「えいやえいや。」と言ふ声ぞ聞こえける。相違なく向かひの岸に飛びつきたりけるが、とりつきたる岩つつ

(あつ、しくじつたな)

じを引き切りてぞ落ち入りける。水は速く、ただ流れ行く。判官これを御覧じて、「あはや、仕損ずるは。」と仰

(激しく揺れ動いて流れ過ぎていく)

(それ見たことか)

せられて、(注)熊手を取り直し、川端に走り寄り、たぎりて通る(注)総角に、ぐさど引つ掛け、「これ見よや。」と

(きつと)

(力強くむんずと)

(鎧を着て人並み)

仰せられければ、(注)伊勢三郎つと寄りて、熊手の柄をむずと取る。判官、差し覗きて見たまへば、鎧着て人に

外れた大男の法師である弁慶を熊手に引っかけ、宙に吊り下げたので

(やつこのことで命をとりとめて)

すぐれたる大の法師を熊手に懸けて、宙に提げたりければ、水たたらたとしてぞ引き上げける。稀有の命生きて

御前に苦笑いしてぞ出て来ける。

判官これを御覧じて、あまりの憎さに、②「如何によ、口の利きたるには似たりけり。」と仰せければ、「過ちは

(冗談で返して申し上げた言ひ訳をした)

常のこと、(注)③孔子の倒れと申すこと候はずや。」と狂言してぞ申しける。

《義経記》

(注)判官 — 「義経」のこと。

熊手 — 長い柄の先に鉄のつめを並べてつけた武器。

総角 — 鎧の背中についている飾りのひも。

伊勢三郎 — 「義経」の家臣。

孔子 — 中国の聖人。

(ア) ①「兜を傾けておはしける」とあるが、そのときの「義経」の様子を説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。【3点】(思・判・表)

1 生憎な態度をとる「弁慶」をこらしめるために、他の家臣に「弁慶」を相手にしないようにと命令しながら、自らは困ったことだと天を仰いだ。

2 さらに難しいところから川を渡ってみせようとする「弁慶」が心配で、落ちる姿をととも見ていられないと思いい、思わず顔をそむけていた。

3 いいところを見せようとする「弁慶」が憎らしいので、他の家臣に「弁慶」を見ないように言いつつ、自分も靴ひもを結ぼうとして下を向いていた。

4 無事に渡ってくれさえすればいいのに、余計なことをして皆に苦勞をかけてしまう「弁慶」の気持ちが理解できず、首をかしげた。

(イ) ②「如何によ、口の利きたるには似ざりけり」とあるが、その意味として最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。【3点】(思・判・表)

1 なんとまあ、口数が多いのに言い訳はしないのだな。

2 どうした、口が達者であるわりにはだらしないな。

3 どうして、減らず口ばかりたたいて皆に合わせないのだ。

4 なんと、口にしたとおりに飛び越えるとは思わなかった。

(ウ) ③「孔子の倒れと申すことは候はずや」とあるが、それを説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。【3点】(思・判・表)

1 中国の聖人である孔子のように立派な人物でも時には失敗をすることがあるのだから、この「弁慶」が失敗するのはあたりまえだということ。

2 中国の聖人である孔子のように何でも知り尽くしている人物に説教しても意味がないのだから、この「弁慶」に説教しても無駄だということ。

3 中国の聖人である孔子のように賢い人物は過ちを犯さないものだから、この「弁慶」が今回過ちを犯してしまったのも珍しいことだということ。

4 中国の聖人である孔子のように穏やかな人物でも何度もひどいことをされれば怒るのだから、この「弁慶」もあまりばかりにされると怒るということ。

(エ) 本文の内容と一致するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。【3点】(思・判・表)

1 「弁慶」は、人前では「義経」と張り合っていたが、内心では助けてもらったことで主人の氣を引くと思いい、わざと川に落ちておぼれるふりをした。

2 「義経」は、「弁慶」が向こう岸に生えていた岩つつじを一度はつかみながらも川に落ちてしまったのを見たが、すぐには助けようとしなかった。

3 「義経」は、「伊勢三郎」に命じて川を流されていく「弁慶」を熊手に引っかけて助けさせると、ずぶ濡れの体を宙にぶら下げてその姿をあざ笑った。

4 「弁慶」は、自分の命にかかわるほどの失敗にも苦笑いして悪びれることなく、「義経」に皮肉を言われても冗談で切り返して言い逃れた。

【七】 四人の中学生が、日本語に関する問題をテーマとするグループ学習で、【資料Ⅰ】～【資料Ⅲ】をもとに話し合いをした。次の【四人の中学生の話し合い】を読んで、各問いに答えなさい。【12点】

【四人の中学生の話し合い】

孝一 昨日の新聞記事によると、カタカナ語を使用することについて、16歳以上の人の35%が「どちらかと言うと好ましくないと感じる」と答えているようだね。これはどうしてだろう。

奈緒 カタカナ語というのは、主に外国語、外来語のことだね。【資料Ⅰ】を見ると、X。そこから考えると、カタカナ語だと意味がよくわからないので、カタカナ語の使用を好ましくないと感じる人がいるということなのではないかな。

優太 うちのおじいちゃんも、この間テレビを見ながら、「最近カタカナ語が多すぎてさっぱりわからない」と言っていたよ。確かにニュースでも、何のことを言っているのかわからないものが多いよね。

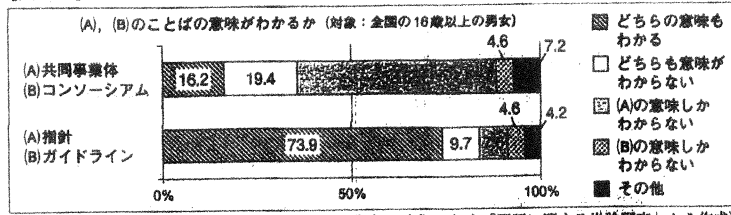
絵理 でも、【資料Ⅱ】を見ると、「リベンジ」を主に使う人の割合は、「雪辱」を主に使う人の割合より40%も多いよね。私も「リベンジ」の方がなじみがあるし、よく使うかな。

孝一 つまり、単純に「カタカナ語だからわかりづらい」ということではないか、ということだね。

絵理 あまり身近でない、わかりにくいカタカナ語もあれば、逆にカタカナ語の方が伝わりやすいこともあるよね。カタカナ語の使用について、私たちが注意すべきことは何かあるかな。

奈緒 【資料Ⅱ】のなかでは、「芸術家」を主に使う人の割合と「アーティスト」を主に使う人の割合とは、あまり差が大きいように見えるけれど、【資料Ⅲ】を見ると、どちらの言葉を主に使うかの割合は年代によって異なるよね。だから、カタカナ語を使うときは、Y 必要があるということかな。

【資料Ⅰ】



(文化庁 平成29年度「国語に関する世論調査」から作成)

【資料Ⅱ】

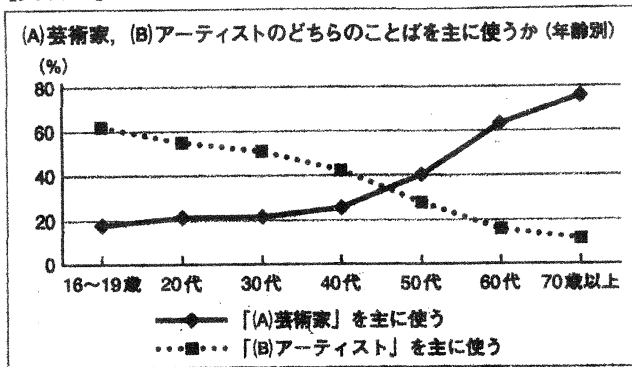
(A)、(B)のどちらのことばを主に使うか (対象：全国の16歳以上の男女)

	(A)を主に使う	(B)を主に使う	どちらの言葉にも使わない	どちらの言葉にも使われる	その他
(A)辞書 (B)シカリイ	54.5	22.3	18.7	4.3	0.2
(A)芸術家 (B)アーティスト	45.3	30.9	21.5	2.1	0.1
(A)雪辱 (B)リベンジ	21.4	61.4	11.6	5.0	0.6

(数字は%)

(文化庁 平成27年度「国語に関する世論調査」から作成)

【資料Ⅲ】



(文化庁 平成27年度「国語に関する世論調査」から作成)

(ア) 奈緒さんの意見が論理的なものとなるためには、Xにどのような言葉を入れるとよいか。

最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。【3点】(思・判・表)

1 「共同事業体」の意味しかわからないという人の割合が五割を超えているのに対して、「コンソーシアム」の意味しかわからないという人の割合は5%に満たないね

2 「共同事業体」と「コンソーシアム」のどちらの意味もわかるという人の割合と、どちらも意味がわからないという人の割合はほとんど変わらないことがわかるね

3 「指針」と「ガイドライン」のどちらか一方の意味しかわからないという人の割合が約12%であるのに対して、どちらの意味もわかるという人の割合は七割を超えているね

4 「指針」と「ガイドライン」のどちらも意味がわからないという人の割合よりも、どちらか一方の意味しかわからないという人の割合の方が大きくなっているね

(イ) 話し合いにおける四人の発言の特徴について説明したものとして適するものを次の中からすべて選び、その番号を答えなさい。【完答3点】(思・判・表)

1 奈緒はことばの定義を確認することで、孝一が提示した話題のわかりづらさを暗に批判している。

2 優太は自らの経験を具体例として示すことによって、話し合いの方向性を変える発言をしている。

3 絵理は資料から読み取った情報をもとに、それまで出ていたものとは異なる見方を提示している。

4 絵理と優太は質問をすることで、他の人の発言の中でよく理解できなかった部分を確認している。

5 孝一は絵理の考えを言い換えることによって、優太の考えとの違いがわかるようにまとめている。

(ウ) 奈緒さんの発言のYに入れるのに適当な内容を三十字以上三十五以内で考え、一文になるように書きなさい。【6点】(思・判・表)